

私の一冊

社会福祉学科 漁田俊子 先生

手塚治虫著 『火の鳥:未来編』

小鹿図書館 : 『手塚治虫漫画大全集 DVD-ROM』(726.1/Te 95)所収

1. 『私の一冊』の原稿を書く順番が回ってきた

「どんな視点で選択すればよいか」考えることになり、自分の「読書遍歴」を振り返るきっかけとなりました。1 ヶ月間考え続け、「1冊だけ選ぶ」というのが大変難しい作業であることを実感しました。困ったな。

2. 自分の人生の道標となった文学作品にしようか、それとも好きな著者から選ぼうか

ある本を読んで心を揺さぶられ、その本が私のものの考え方に影響を及ぼした、というようなことがかつて多々ありました。また、子ども時代から結構な凝り性であったものですから、一人の作家やシリーズにはまり込むということも繰り返してきました。小学校時代にルパンやホームズものから始まり、デュマや芥川龍之介、中学校では太宰治・志賀直哉・夏目漱石・国木田独步、堀辰雄にはまり、最近 20 年間では、村上春樹・内田百閒・加島祥造など、当時または現在、出版されているもの全てを読みました。この中から1冊選ぼうか。

3. いやいや、「本」は文学作品だけではなかった。「マンガ」や「絵本」があった！

マンガと絵本…かつて好きだったたくさんの作品やマンガ家が頭に浮かびました。小学校時代の桑田次郎(二郎)から始まって、ちばてつや、手塚治虫、横山光輝、萩尾望都、石(ノ)森章太郎、大島弓子、ますむらひろし、山岸涼子、坂田靖子、樹村みのり、諸星大二郎、西岸良平などなど。最終的にはサン＝テグジュペリ『星の王子さま』と迷いましたが、私が大きな影響を受けたダントツは、やはり手塚治虫『火の鳥』シリーズだったとの考えに至りました。そこで、この中から1冊選ぶことにしました。しかし、シリーズの中から1冊選ぶのがまた大変。

4. 火の鳥:未来編 「悠久」「愛」「宇宙」「生物」「生きるということ」って？

今、私の手元に青いぼろぼろの表紙の『火の鳥:未来編』(昭和48年発行:COM名作コミックス)があります。学生時代(大学4年生か大学院1年生頃)に大きな感動を覚えた作品

です。思い出の登場者たちは、マサトとタマミ(ムーピー)、猿田博士とロビタ、そして火の鳥…。 学生時代、狭い視野と少ない知識しか持たず我が儘に生きていた私に、この未来編は、というよりこの『火の鳥』シリーズの多くの作品が「壮大な時の流れ、生と死、絶望と希望、地球と宇宙、孤独と愛」について、教えてくれました。 学生の皆さんには、未来編だけでなく、是非『火の鳥』シリーズを読んで頂きたいと思っています。